

福島県立医科大学 臨床研究イノベーションセンター 臨床研究フェローシップ

《臨床研究フェローシップとは？》

福島県立医科大学臨床研究フェローシップは、我が国で初めて開始された、若手臨床医が独立した臨床研究者となるための実施可能性の高い教育プログラムです。

《臨床研究フェローシップの3つの特徴》

① 臨床研究リテラシーの系統的学習と臨床研究のコンピテンシーを習得

当プログラムでは、学習と実践演習に専念するための protected time が確保されます。忙しい臨床の合間にしか学習と研究の時間を割けなかった若手医師を臨床研究イノベーションセンターに所属する有給の助手（臨床研究フェロー、以下フェローと略）として採用することで、臨床研究の学習と実践演習のための時間と収入を確保します。この protected time を活かして、臨床研究リテラシーの系統的学習と臨床研究のコンピテンシーを習得します。臨床研究イノベーションセンター教員、京都大学医療疫学分野教員、海外大学教授陣による個人指導（メンタリンク）も充実しています。また、希望者は各種学位の取得もできます（応相談）。

② 診療・臨床指導を行い、現場感覚を持ちながら臨床研究を学習

本プログラムは、福島県の支援により、県外から有能な臨床医を福島県内に招致するために作られました。フェローは毎週、県内の連携施設（地域の拠点施設や診療所）で診療支援を行います。勤務はシフト制のため、診療支援の時間以外で診療義務はありません。

③ 健康長寿事業を通じた on the job training

フェローは、臨床研究イノベーションセンターが、福島県内のモデル地域で行っている健康長寿事業に従事し、データベースの構築、健康長寿プログラムの策定と実施などに従事しながら学ぶことが可能です。今年度より蓄積したデータからの研究成果を ACP 日本支部年次総会やプライマリ・ケア連合学会で発表し、論文投稿しています。

あなたの「心」と「腕」を福島に役だててみませんか？

《応募資格と修練年限》

対 象：臨床経験2年以上の医師（後期研修修了者が望ましい）

診療科を問わない（特に、総合診療、内科、救急、小児科、産婦人科などを歓迎）

待 遇：福島県立医科大学助手または助教（常勤、有給）、診療支援先からも別途報酬あり

研修期間：原則3年（応相談）

募集期間：随時若干名

お問い合わせ先：福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンターウェブサイト

<http://www.fuji-future.jp/>